# Ⅱ 鳥取県の地方創生に係る現状と第2期戦略の方向性

# 1. 鳥取県の地方創生に係る現状

本県では、全国で地方創生の取組が本格的に始められる 2015 (H27) 年以前から、地方創生に係る施策に先駆的に取り組んできており、様々な成果が現れるとともに、今後一層の取組が必要な課題も明らかになってきています。

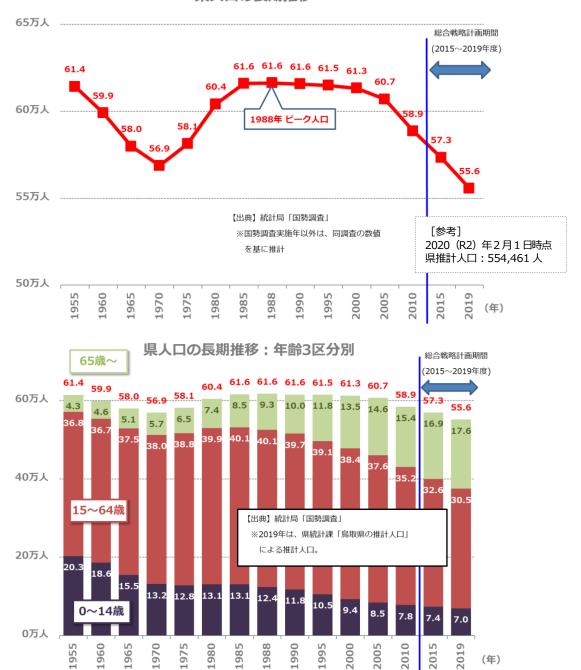
#### 1 人口

※以下の各指標では、概ね 10 年間 (2008 (H20) 年から最新年までの実績を記載しています。

#### ①総人口

- ・ 鳥取県の総人口は1955 (S30) 年から1970 (S45) 年にかけて減少した後、増加に転じましたが、1988 (S63) 年に過去最高(616,371人)を記録した後は減少が続いています。
- ピーク時(1988(S63)年)以降、年少人口(0~14歳)や生産年齢人口(15~64歳)は減少し、老年人口(65歳以上)は増加し続けています。2019(R1)年現在、年少人口は約56%、生産年齢人口は約76%まで減少する一方、老年人口(65歳以上)は、1985(S60)年と比較して2倍以上増加しています。

## 県人口の長期推移

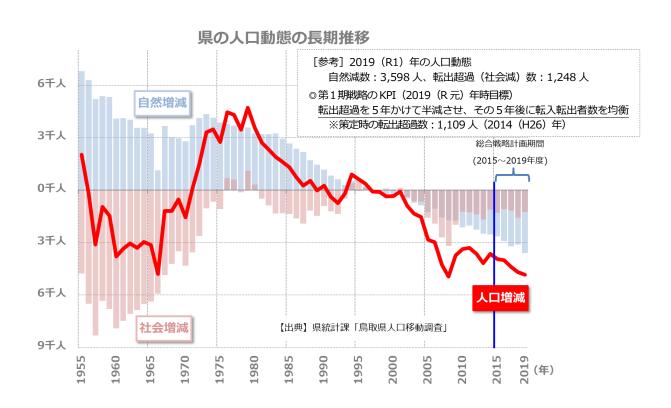


## ②将来推計人口

- ・ 本県の総人口は減少を続けており、2045 (R27) 年には、総合戦略を策定した 2015 (H27) 年に比べて 78%の規模、年少人口は3割減となる見通しとなっています。2045 (R27) 年には従属人口(年少人口と老年人口の合計)と生産年齢人口がほぼ同程度となります。
- 2040 年 (R22 年) 時点における本県の将来推計人口は、2013 (H25) 年に公表された推計値で 441,038 人だったものが、2018 (H30) 年に公表された推計値で 472,156 人と、約 31,000 人の上振れとなり、これまでの移住定住の促進や子育て施策などの効果が現れる結果となりました。

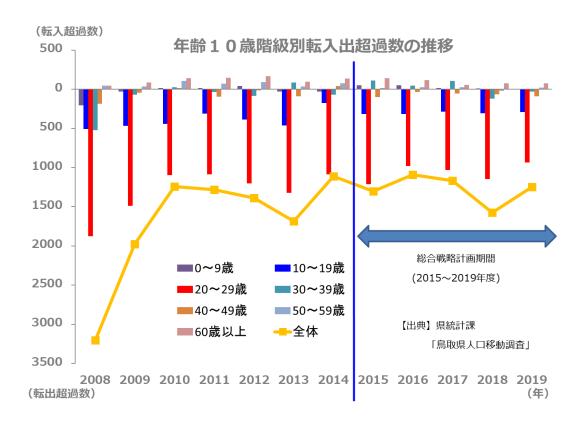


・ 2002 (H14) 年以降、自然動態・社会動態ともにマイナスの状態が継続しており、高齢者数の増加 と出生数の減少に伴う「少産多死」による自然動態のマイナス幅が拡大傾向にあることが、人口減 少の主な要因となっています。



#### 4人口動態

・ リーマンショックが発生した 2008 (H20) 年以降、転出超過幅が縮小したものの、転出超過の状態は 依然続いており、特にその多くを占める若者への対策が喫緊の課題となっています。



# ⑤合計特殊出生率 · 出生数

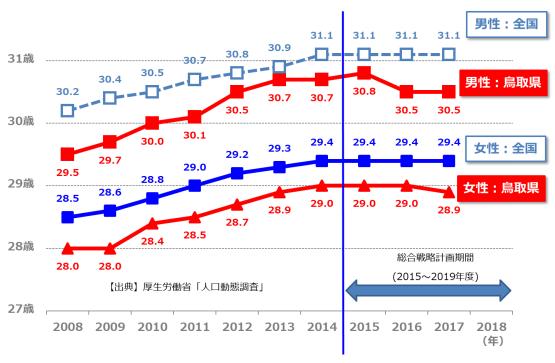
- ・ 2010 (H22) 年の子育て王国建国以降、「子育て王国とっとり」の実現に向けて少子化対策に取り組んだ結果、2008 (H20) 年に1.43 (全国17位)まで低下した合計特殊出生率は、1.6台にまで回復しています。
- ・ 出生数は減少傾向が依然続いており、近年では4,000人台前半で推移しています。



## ⑥平均初婚年齡

・ 県内男性・女性のいずれも全国平均より低いものの、男性・女性ともに依然として晩婚化の状況にあります。

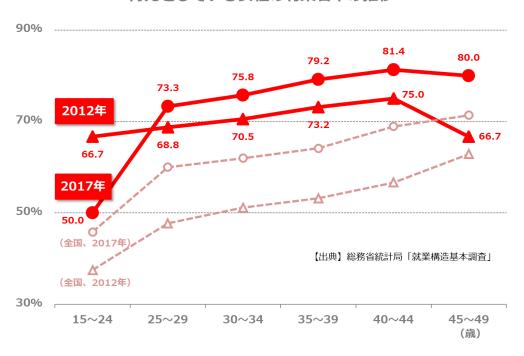
# 平均初婚年齢の推移:男性・女性



## ⑦育児をしている女性の有業者率

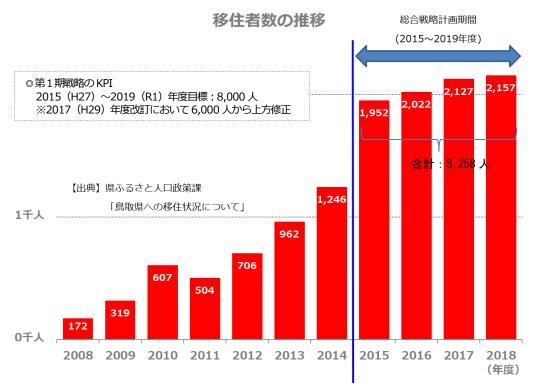
- 2012 (H24)年と 2017 (H29) 年を比較したところ、15 歳から 24 歳を除く年代において、2017 (H29) 年の有業者率が、2012 (H24) 年の有業者率を上回る結果となりました。
- 2017 (H29) 年における本県の育児をしている女性の有業者率は、全ての年代で全国平均を上回る 有業者率となりました。

## 育児をしている女性の有業者率の推移



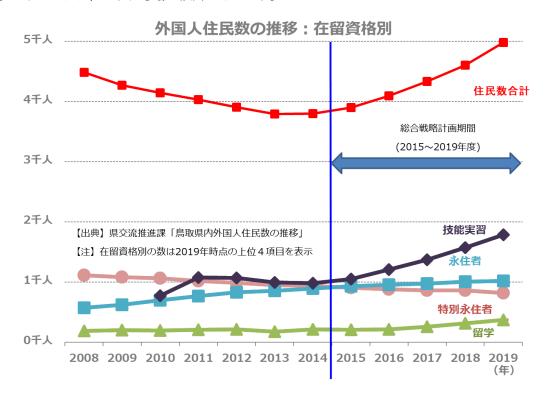
## ⑧移住者数

- ・ 移住を検討している者に対するきめ細やかな相談体制の構築や、大都市圏での移住定住促進の取組により、2008 (H20) 年度と比較すると大幅に増加しました。
- ・ ただし、全国の自治体が本格的に移住施策に取り組み始めたことから、移住者数の伸び率は鈍化しています。



#### 9外国人住民数

・ 2013 (H25) 年以降、外国人住民数の増加が続いているとともに、在留資格別にみると技能実習が最 多となっており、いずれも増加傾向にあります。



#### 2 経済

## ①実質県内総生産・実質経済成長率

- ・ 実質県内総生産は、2008 (H20) 年度から 2012 (H24) 年度にかけてやや低下したものの、2015 (H27) 年度以降は増加しており、2008 (H20) 年度以上のレベルにまで回復しました。
- ・ 実質経済成長率は、2008 (H20) 年度から 2014 (H26) 年度まで、全国平均よりも低い水準が続いていましたが、2015 (H27) 年度以降は、全国平均を上回る水準を維持しています。



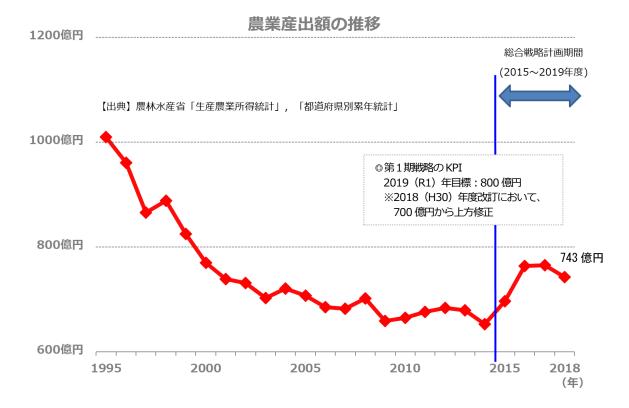
## ②製造品出荷額等

・ 2008 (H20) 年から 2013 (H25) 年にかけて低下したものの、それ以降は増加を続けています。



#### ③農業産出額

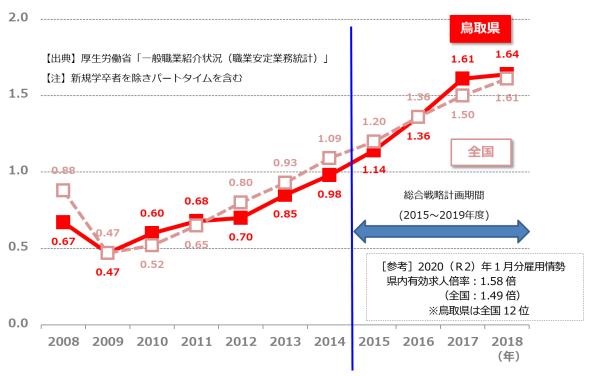
・ 農業産出額の減少傾向が 2014 (H26) 年まで続いていましたが、主力園芸品目の栽培面積の増加等により、2015 (H27) 年にはV字回復を果たし、2016 (H28)年以降も同水準を維持しています。



## 4有効求人倍率

・ 2012 (H24) 年以降、全国平均を若干下回る状態が続いていましたが、着実に上昇を続け、近年は 全国平均を上回る倍率で推移していますが、この傾向に伴い、人手不足感が高まっています。

# 有効求人倍率の推移



## ⑤高校生の県内就職率

・ 2008 (H20) 年以降、全国平均よりもやや低い率で推移し続けており、将来の鳥取県を支えていく 若者の県内定着に向けた一層の取組が必要となっています。

# 高校生の県内就職率の推移



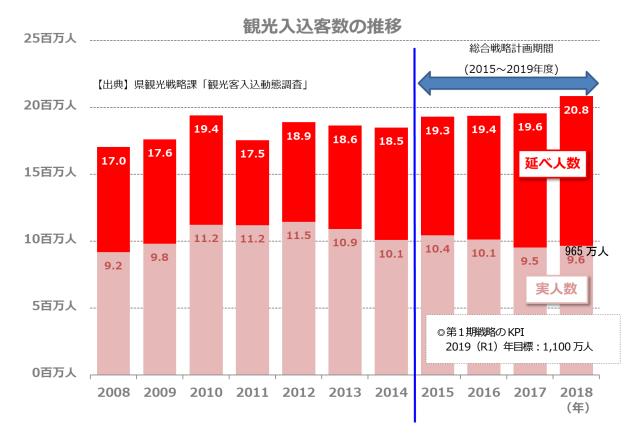
#### ⑥障がい者実雇用率

・ 全国平均よりも高い実雇用率を維持しており、2014 (H26) 年以降、上昇が続いています。



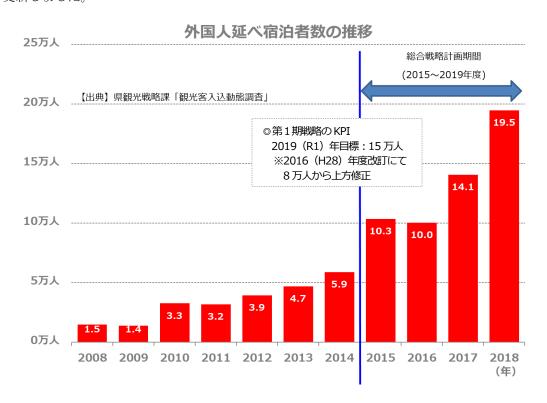
#### ⑦観光入込客数

- ・ 延べ人数は、2008 (H20) 年以降、着実に増加してきましたが、特に 2018 (H30) 年は大幅に増加 し、20百万人を超えました。
- ・ 実人数は、2008 (H20) 年以降、ほぼ同水準を維持しています。



#### 8 外国人延べ宿泊者数

・ 海外に向けた情報発信、国際定期便、チャーター便の積極的な誘致活動や受け入れ環境整備等により、2008 (H20) 年以降、着実に増加してきましたが、2018 (H30) 年は194,730 人泊と過去最高を更新しました。



## 9空き家数・空き家率

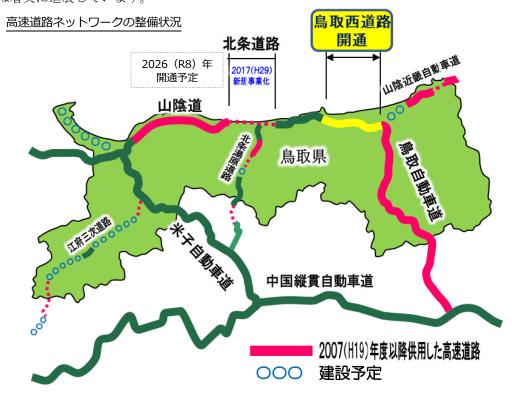
・ 空き家率は、空き家数の増加に伴い上昇基調が続いています。



## 4 地方創生の主な成果

## ①道路整備

・ 鳥取自動車道や山陰自動車道などの整備が進むとともに、2019 (R1) 年5月の鳥取西道路開通により、県内高速道路供用率は80.2%に向上し、鳥取一米子間が15分短縮(所要時間95分)されました。また、山陰道が2026 (R8) 年度に県内全線開通見込みとなるなど、本県の高速道路網の整備は着実に進展しています。



#### ②国際路線の就航による利便性向上

・ 山陰初の国際LCCエアソウルが 2016 (H28) 年 10 月に就航し、米子ソウル便が週 6 便に増便したほか、 2016 (H28) 年 9 月に就航した米子香港便は週 3 便運航 (R1.8 月現在) するとともに、2020 (R2) 年 1 月に は新たに米子上海便 (週 2 便運航) が就航となりました。また、国際チャーター便の運航も拡大するなど、 国際リゾート鳥取の実現に向けて空の便の利便性は飛躍的に向上しました。



米子上海便 吉祥航空



台湾とのチャーター便チャイナエアライン

## ③空と海のツインポート化の推進

・2018 (H30) 年7月の鳥取砂丘コナン空港ターミナルビル一体化や2018 (H30) 年3月に鳥取砂丘コナン空港と鳥取港を結ぶ「かにっこ空港ロード」が整備され、空と海のツインポート化が進み、両港が一体となった交流人口拡大や地域活性化が加速しています。



## ④山陰海岸ジオパークの魅力発信

・ 山陰海岸ジオパークは、2010 (H22) 年 10 月に「山陰海岸ユネスコ世界ジオパーク」に認定され、2019 (H31) 年 2 月には 2 度目の再認定を受けました。山陰海岸ジオパークの魅力を紹介する「山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館」や「鳥取砂丘ビジターセンター」(2018 (H30) 年 10 月開館)との相乗効果により、日々、県内外の多くの観光客を魅了しています。



浦富海岸でのシーカヤック



鳥取砂丘でのサンドボード



鳥取砂丘ビジターセンター

#### ⑤青谷上寺地遺跡の整備

- ・ 「地下の弥生博物館」と呼ばれる青谷上寺地遺跡は、弥生時代の暮らしや社会を体験できる史跡公園として整備を進めています。
- ・ 青谷上寺地遺跡や県西部の妻木晩田遺跡を地域振興、観光資源化に繋げるため、両遺跡が一体となって「とっとり弥生の王国」として全国に向けた魅力発信を行っています。



青谷上寺地遺跡で出土した数々の文化財



国内で唯一残った 弥生人の脳



妻木晩田遺跡での見学会の様子

## ⑥あいサポート運動の推進と共生社会の実現

- ・ 障がいのある方が暮らしやすい地域社会を県民とともにつくる「あいサポート運動」は鳥取県から 国内外に広がっており、また、2017 (H29) 年9月には「あいサポート条例」を制定するなど、共 生社会の実現に向けて全国に先駆けて取り組んでいます。
- ・ 2013 年 (H25) 年 10 月には全国初の「手話言語条例」を制定するとともに、全国手話パフォーマンス甲子園の開催などにより、手話言語の理解・普及を図っています。



手話言語条例の制定に沸く鳥取県議会



障がいのある方を支える心を2つのハートで 表現した「あいサポートバッジ」

## (7)鳥取県立ハローワークの設置

- ・ 県内4箇所(鳥取、倉吉、米子、境港)と東京、関西に県立ハローワークを設置しています。(2017 (H29)年7月~:東京・関西・米子・境港、2018 (H30)年4月~:倉吉、2018 (H30)年6月~: 鳥取)
- ・「産業施策」「雇用施策」「移住施策」が一体となった求職者と企業の一貫支援による効果的なマッチングを行うとともに、出張相談会や企業と連携した合同説明会等を実施しており、多くの方の相談・就職に繋がっています。



県立鳥取八ローワーク開所式



合同企業説明会・面接会の様子

#### 8県立中央病院新病院の整備

・ 2018 (H30) 年 12 月に新病院をオープンし、『がん診療連携拠点病院』としての機能充実を図るとと もに、鳥取赤十字病院との病病連携により、県東部圏域における医療提供体制の強化を図りました。



新病院の全景



最新鋭の治療装置を使った手術の様子

## 9県立美術館の整備

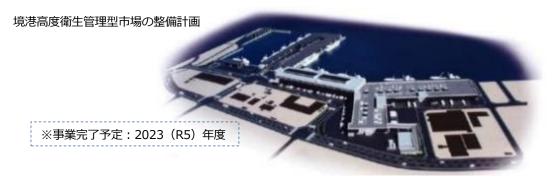
- ・ 2025 (R7) 年春のオープンに向け、県立美術館(倉吉市内)の整備を進めています。
- ・ 県内どこでも美術館サービスが享受できる美術館ネットワークを推進するとともに、子どもたちの 想像力や創造性、コミュニケーション力を育むための美術ラーニングセンター (仮称) 機能の充実 に向け取り組んでいます。



県立美術館の外観イメージ

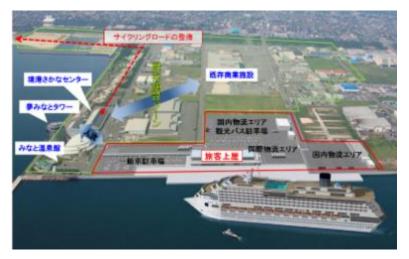
#### ⑩境港高度衛生管理型市場

・ 境港水産物地方卸売市場では、消費者の食の安全・安心ニーズ及び輸出促進等に対応する高度衛生 管理型市場の整備を進めており、主要施設である1号上屋、陸送上屋が完成し、2019 (R1) 年6月 に供用を開始しており、引き続き、2号上屋、カニかご上屋を整備しています。



## ①境夢みなとターミナルの整備

・2020 (R2) 年4月、竹内南地区にRORO船とクルーズ客船のターミナルとして境夢みなとターミナルが供用を開始しました。これにより、境港の北東アジアゲートウェイとしてのプレゼンスが高まるとともに、新たな「物流」「人流」の拠点となることが期待されています。



竹内南地区貨客船ターミナルの整備計画

#### ⑫とっとりバイオフロンティア・とっとり創薬実証センターの開所

・2011 (H23) 年4月に開所した「とっとりバイオフロンティア」に続き、2018 (H30) 年4月、鳥取大学独自の染色体工学技術をもとに医薬品の開発を目指す「とっとり創薬実証センター」がバイオフロンティアに隣接して開設され、新しい医薬品開発等に向けた産学官共同の研究開発が進んでいます。



とっとりバイオフロンティアの外観



とっとり創薬実証センター内のオープンラボ

## ③政府関係機関の県内移転による産業の活性化

- ・ 病気に強い梨のオリジナル新品種の開発を目指し、2017 (H29) 年4月、国立研究開発法人農業・ 食品産業技術総合研究機構「鳥取ナシ育種研究サイト」を北栄町に開所しました。
- ・ 2018 (H30) 年4月、職業能力開発総合大学校の基盤整備センター高度訓練開発室が移転し、県内 企業と連携して自動車・航空機・医療機器分野の職業訓練コースや教材の開発を行っています。



施設内に設置された育種圃場



高度訓練開発室の移転式典

#### ⑭オリジナルブランドによる"食のみやこ鳥取県"の飛躍

- ・第11回全国和牛能力共進会宮城大会(2017(H29)年9月開催)で鳥取和牛「白鵬85の3」が初の肉質日本一に輝いたほか、特選とっとり松葉がに「五輝星」は、2019(R1)年の初競りで1枚500万円の世界一の高値が付きました。
- ・ また、日本有数の梨の産地鳥取が誇るオリジナル品種「新甘泉」や、星のように輝く米「星空舞」など、食のみやこ鳥取県を牽引するオリジナル新品種が数多く誕生しました。



肉質日本一に輝いた鳥取和牛 ※第7区 (総合評価群) の肉用群:「白鵬 85 の 3」の子第1位





鳥取が誇る食のオリジナルブランド

# 2. 第1期戦略の総括と第2期戦略の方向性

第1期戦略では、鳥取県ならではの特徴・特色を踏まえ、「強み」を伸ばしていく地方創生の 実現のため、東京圏に集中している人の流れを変えるとともに子どもが増え「人口減少に歯止 めをかける」対策と、「人口減でも持続的で活力ある地域をつくる」対策の両方を行ってきまし た。

前述のとおり、第1期戦略における各種施策の推進により、インバウンド観光の拡大や移住者数の増加、雇用の創出など、地域活性化に繋がる重要な分野において成果が現れてきていますが、次の世代に向けた持続可能な社会づくりの基礎となる人口については、その減少に歯止めがかかっていません。

人口の減少及びそれに伴う人口構造の変化は、子育で・教育の環境の変化、生活を支えるサービスの維持、産業人材や事業後継者の確保、インフラの維持管理など、地域における安心・安全な暮らしに様々な影響をもたらしつつあり、それらは将来に向け、より一層の課題となって現れる可能性があります。

その一方で、第1期戦略の策定時には想定できなかった技術の進歩やグローバル化の進展等により、従来では不可能であった分野へのチャレンジが、地方でも可能となってきています。

また、2020 (R2) 年4月以降世界的に拡大した新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) は、人々に意識・行動の変容をもたらしています。

地方創生は、一朝一夕に成果が現れるものではありません。これまでの地方創生の成果を引き継いでいくため、第2期戦略においても、少ない人口でも活力に溢れ、一人ひとりが自分らしく暮らしていける地域づくりを継続していく姿勢が求められます。

これらのことから、第2期戦略においては、第1期戦略の「豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる」「人々の絆が結ばれた鳥取のまちに住む」「幸せを感じながら鳥取の時を楽しむ」の3つの基本方針を引き継ぐとともに、持続可能な地域社会づくりに向けた基本的な視点として新たにSDG s  $^6$  (持続可能な開発目標)の概念を盛り込み、第2期戦略による地方創生の展開を通じて、SDG s のゴール達成を目指します。

さらに、第2期戦略には、国の「まち・ひと・しごと創生基本方針2020」(2020 (R2) 年7月17日閣議決定)に盛り込まれた関係人口の創出・拡大やSociety5.0<sup>7</sup>の推進、第2期「まち・ひと・しごと創生戦略2020改訂版」(2020 (R2) 年12月21日閣議決定)に盛り込まれた新型コロナウイルス感染症の拡大を契機とした地方への新たな人の流れの創出など、新たな視点に対応し、本県の状況を踏まえ関連する項目を規定しています。

このように、新たな時代の流れを捉えた取組の推進により、現在及び今後生じうる課題に対応し、第2期戦略の着実な遂行によって持続可能な地域社会が実現し、県民一人ひとりが明るい未来を描くことができるよう、真の地方創生の取組を推進していきます。

<sup>&</sup>lt;sup>6</sup> SDGs: Sustainable Development Goals の略。2015 (H27) 年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に て記載された2016 (H28) 年から2030 (R12) 年までの国際目標。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地 球上の誰一人として取り残さない(leave no one behind)ことを誓っている。

<sup>&</sup>lt;sup>7</sup> Society 5.0: 狩猟社会 (Society 1.0)、農耕社会 (Society 2.0)、工業社会 (Society 3.0)、情報社会 (Society 4.0) に続く、新たな社会を指す もので、第5期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱された。サイバー空間 (仮想空間) とフィジカル空間 (現実空間) を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会 (Society) をいう。